

いじめは許さない、見逃さない ～いじめは命にかかわること～

基本姿勢

- ・いじめの問題への対応は学校における最重要課題の一つである。
- ・学校が一丸となって組織的に対応する。
- ・生徒がいじめを認識しながら放置することがないよう、いじめが生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて生徒が十分理解できるようにする。

対応

- ・学校を挙げて対応する。「いじめ対策チーム」→いじめを見逃さない学校づくり
- ・認識と意識を深める。
認識「どの子どもにも、どの学校でも、起こりうる」
意識「いじめは人間として絶対に許されない」
- ・外部関係機関及び家庭や地域との連携を図る。→風通しのよい学校づくり

いじめられている子の心情

- ・仕返しが怖くて言えない。
- ・逆に仲間でいたいという思いもある。
- ・いじめられる弱い子と思われたくない。
- ・屈辱を受けている自分をさらけ出したくない。知られたくない。

いじめの多い時期(統計より)

- ・6月、10月に多く見られ、起こりやすい時期と言える。

保護者へ(隠さない)

- ・なぜ発生したのか ・なぜ発見できなかったのか ・なぜ直ぐに対応できなかったのか

生徒へ(隠さない)

- ・真実を知りたい。
- ・事実を明らかにしてほしい。
*生徒の声に真摯に向き合う。

いじめの発見(教師の姿勢)

- ・声かけやライフのやりとり等から生徒との関係性を高め、子どもの声が届くように心がける。
- ・行動観察を怠らない。教師の「おかしい」はほとんど当たっていると思っていい。声を出して情報共有する。 ※県冊子「3 いじめの発見」をもとに発見力を磨く。
- ・早期報連相による早期チーム対応につなげる。